越境対馬 2026　参加者募集のお知らせ

対馬を知っていますか？「国境の島」と呼ばれる対馬は、九州と朝鮮半島との間に浮かぶ離島で、釜山から約 50km、博多からは約 140km の距離にあります。九州よりも半島の方が近いという地理的特性から、古来より日本列島と朝鮮半島の交流の窓口としての役割を担ってきました。

対馬と釜山との間には四半世紀前に定期航路が開設され、そのために韓国からの観光客が増え続け、2018 年には人口 3 万人のこの島に年間 40 万人もの韓国人観光客が訪れる状況になりました。このことは人口減少に喘ぎ、公共事業に依存する過疎の島に多大なる経済的恩恵をもたらした一方で、文化摩擦をめぐる問題などから島の地域社会に大きな影響を及ぼしました。そして 2019 年夏からの日韓関係の悪化により韓国人観光客が激減し、さらに新型コロナウィルスの世界的な蔓延により「国境」は閉ざされました。2023 年 2 月に釜山―対馬航路は再開し、現在では、かつてのオーバー・ツーリズムの反省を踏まえた新たな「国境離島」振興が模索されています。

さて、「越境対馬」はこのような興味深い島を舞台に、2015 年度から毎年行ってきたプログラムです。まず韓国に入り、釜山から船で対馬に渡って滞在し、そして福岡へと至る「越境」を通して、古代からの境界を越えた交流の経路をたどります。対馬では民泊することで島の生活を体験し、島民の方々の意識に直接迫ります。これらを通して、「国境」について国家レヴェルの認識と《国境離島》の地域住民からの視点を交叉させ、日本と韓国という国家どうしの単純な二項対立から脱して理解することを目指しています。

「越境対馬」の活動は、多くの関係者に支えられています。民泊をさせていただく対馬のご家庭はもちろん、行政関係者にも現地での調査にご協力をいただいています。韓国の高麗大学とは 8 年にわたって「歴史対話」を継続しており、今年も東京とソウルで開催する予定です。また、東京科学大学（旧東工大）の坂村圭准教授とも連携し、研究室訪問や科学大の学生との交流を行っています。

日本に住んでいてもほとんどの人が生涯に一度も訪れることのない対馬を、自分のフィールドにしてみませんか？

１．活動内容

❒韓国・対馬・福岡への巡検

2026 年 7 月 30 日～8 月 6 日に実施予定　　※前泊や後泊が必要になることもある

❒高麗大の学生との「歴史対話」

東京では巡検前に、ソウルでは巡検中に実施予定

❒東京科学大（旧東工大）の坂村研究室での活動

巡検の前後に研究室訪問を実施予定

❒領土・主権展示館（東京）と独島体験館（ソウル）の訪問

領土・主権展示館は 7 月中に、独島体験館は巡検中に訪問予定

２．担当教員とサポート態勢

柿沼亮介（日本史）、秋山和広（生物）

※他に学院 OB や、高麗大や東京科学大の教員などにご協力いただく。

３．募集人数

12 名程度（高 3 総合「越境対馬」の受講生を含む）

４．費用

15～20 万円程度（実費）

５．選考方法

説明会にて指示する所定の課題に基づいて選考する

６．説明会

日時：2026 年 4 月 16 日（木）12:40～13:00

場所：72 号館 1 階　社会科教室

※参加希望者は、必ず説明会に出席すること。

７．問い合わせ先

地歴科　柿沼亮介　hanno-kackey@waseda.jp

［参考］2025 年の行程

8/1　成田空港→ソウル・仁川空港　　高麗大学校での交流会　　ソウル泊

8/2　大韓民国歴史博物館　　光化門独島展示施設

KTX ソウル→釜山　　釜山近現代歴史館　　草梁倭館跡　　釜山泊

8/3　釜山港→対馬・比田勝港　　比田勝での韓国人観光客へのアンケート調査

韓国展望所　　豊砲台跡　　上対馬泊（民泊）

8/4　比田勝の商店・飲食店・宿泊業者からの聞き取り調査　　上対馬病院での聞き取り調査

養蜂家からの聞き取り調査　　和多都美神社　　朝鮮通信使歴史館　　豆酘・内山泊（民泊）

8/5　賀谷藻場保全会／環境省ツシマヤマネコ野生順化ステーション／清水山城　　対馬博物館

対馬市役所観光交流商工課と対馬観光物産協会からの聞き取り調査　　豆酘・内山泊（民泊）

8/6　金田城登山　　浅茅湾でのシーカヤック（強風のため中止）

NPO 法人対馬 CAPPA での聞き取り調査　　小茂田浜（蒙古軍上陸地）　　豆酘泊（民宿）

8/7　万松院　　厳原港→博多港

博多港国際ターミナルの見学　　博多散策　　博多泊

8/7　福岡大学にて、高麗大・全南大・福岡大の学生との「歴史対話」（渥美国際交流財団との共催）

博多にて解散

※2015 年度から始まった「越境対馬」の活動内容や意義については、柿沼亮介「《国境離島》を舞台とした教育の可能性　―「越境対馬」 十年のあゆみ―」（『早稲田大学高等学院　研究年誌』69、2025）を参照されたい。（早稲田大学のリポジトリからダウンロード可能）

☆自ら研究テーマを設定し、主体的に活動できる諸君の参加を待っています。